

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道218号 きゅうしゅうおうだん のべおか や べせいわ (九州横断自動車道延岡線)矢部清和道路		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：熊本県上益城郡山都町城平 かみましき やまとちょうじょうひら 至：熊本県上益城郡山都町大平 かみましき やまとちょうおおひら				延長	10.3km
事業概要	九州横断自動車道延岡線（嘉島JCT～矢部）、矢部清和道路、蘇陽五ヶ瀬道路、五ヶ瀬高千穂道路、高千穂雲海橋道路は、高規格道路の九州縦貫自動車道及び東九州自動車道に接続する広域道路ネットワークの一部を形成するとともに、国道218号の防災機能の向上や救急医療アクセスの向上等を目的とした事業である。					
R4年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)		R一年度用地着手		R一年度工事着手	
全体事業費	約740億円		事業進捗率 (令和4年3月末時点)	0%	供用済延長	0.0km
計画交通量	11,400台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (1.1) (残事業) 1.4 (1.1)	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,687/4,261億円 (事業費：1,524/3,875億円 維持管理費：157/359億円 更新費：5.7/27億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 2,349/5,368億円 (走行時間短縮便益：2,074/4,604億円 走行経費減少便益：204/587億円 交通事故減少便益：71/176億円)	基準年 令和4年		
感度分析の結果	【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.4（交通量±10%） 事業費：B/C=1.2～1.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.4（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C=1.3～1.5（交通量±10%） 事業費：B/C=1.3～1.5（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.5（事業期間±20%）					
事業の効果等	<p>①広域交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>熊本市から延岡市の所要時間が短縮され、広域道路ネットワークの形成に寄与する。</li> </ul> <p>②広域物流の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延岡線の整備により、走行性の向上、輸送時間短縮等による出荷量が増加し、物流効率化を支援。</li> </ul> <p>③防災機能の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急輸送ルートとして代替路が確保され、大規模災害からの救命活動、復旧・復興を支える強靱なネットワークの構築に寄与する。</li> </ul> <p>④救急医療アクセスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延岡市や熊本市の第三次救急医療施設への救急搬送の圏域が拡大され、沿線の救命サービスの向上に寄与する。</li> </ul> <p>⑤広域観光ルート形成による観光支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沿線の周遊性向上や阿蘇地域への圏域拡大が図られ、観光の振興を支援。</li> </ul> <p>⑥生活環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO<sub>2</sub>, NO<sub>2</sub>, SPM削減）</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	宮崎・熊本県知事や沿線市町長で構成される①九州中央自動車道建設促進協議会（会長：宮崎県知事）、延岡市をはじめとする沿線市町長で構成される②九州中央自動車道建設促進期成会（会長：延岡市長）等により早期整備の要望を受けている。（①令和4年11月、②令和4年7、10月）					
熊本の意見	今回、意見照会のありました九州横断自動車道延岡線（嘉島JCT～矢部）及び一般国道218号矢部清和道路、蘇陽五ヶ瀬道路に関する国の「対応方針（原案）」案については、異存ありません。					

本路線は、九州の横軸として本県と宮崎県が繋がることで、観光客の増加や物流の効率化など様々な波及効果が期待され、地域経済の発展や地方創生の実現に不可欠な道路です。加えて、「平成28年熊本地震」や「令和2年7月豪雨」の経験を踏まえ、大規模災害発生時において隣接する宮崎県との速やかな支援・受援を可能にする本路線は、九州全体の防災力向上に大きな効果を発揮する「命の道」としても、必要不可欠な道路です。

以上のことから、本県としては、一日も早い全線の完成供用を切望しております。今後ともなお一層の整備推進とともに、更なるコスト縮減に努めて頂きますようお願いいたします。

**事業評価監視委員会の意見**

審議の結果、事業継続。

**事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等**

沿線地域の人口は減少傾向にある一方で、一世帯あたりの自動車保有台数は増加の傾向。並行現道(国道218号)の交通量は、矢部清和道路の並行区間で約6千台/日で推移。

事業化時と比較して、社会的情勢の大きな変化は認められない。

**事業の進捗状況、残事業の内容等**

令和4年度に事業化、用地進捗率0%、事業進捗率0%(令和4年3月末時点)

**事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等**

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

**施設の構造や工法の変更等**

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

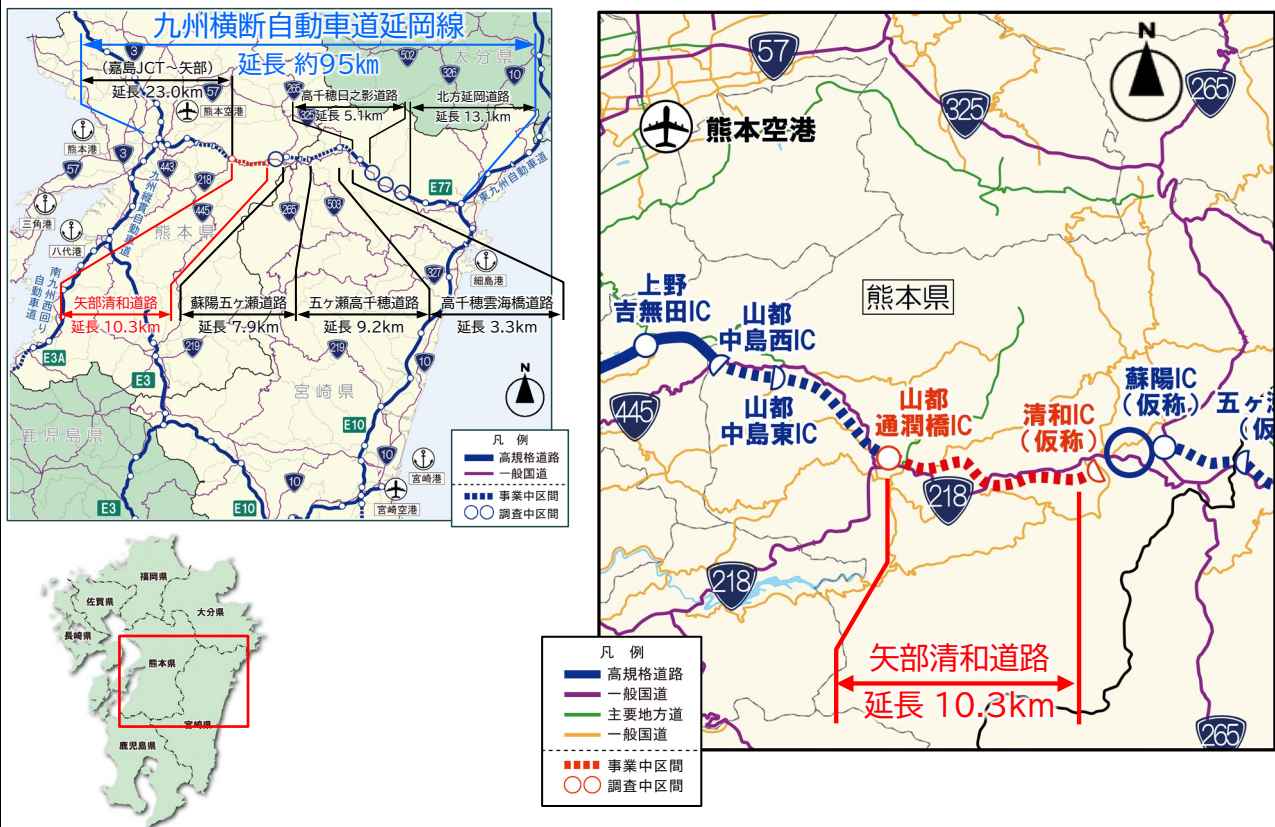
**対応方針**

事業継続

**対応方針決定の理由**

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

**事業概要図**



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。